

かりとかっていうのも、ちょっと利用したいなと思っていた矢先に、私から全く離れなくなってしまう。だから、今何もできなくて、私自身がちょっと…。

Int： ご自分の時間がね。結構、ストレス溜まりますよね。ちょうど、そういった正常な発達のところね。

E： みんな通るところなんだと思うんですけど、やっぱりストレス溜まりますね。

Int： そうすると、お子さんは、今後は保育園とか？まだ先かもしれないですけども。

E： できれば、私も仕事をまたしたいなという気持ちがあって、なかなか難しいなとは思いますが。ただ保育所もなかなか…。近くのいつも支援センターで行ってる保育所が、今ちょうど申込みの時期だったし、ちょうど入る頃にはもう 2 歳になるので聞いてみたら、2 歳はもういっぱいですって言われちゃって。

Int： そういう状況なのね。でも、それは働いている人が優先ということになっちゃうから、いっぱいになっちゃうんですかね。

E： いや、どうなのでしょう。もともといっぱいだったのが、震災後に、結局、閉鎖してできなくなった保育所とかも多分いっぱいあったりして、なおさら入りにくいんじゃないかと。だんだん再開したりしてるみたいなんですけど。でも改めてというか、本格的に預けようと思って探していたわけではなくて、その一時預かりのことで、ちょっと申込みというか聞きにいったときに、ついでに聞いてみたら、そのように言われてしまって。

Int： どうしようかなっていうか、今すぐに決めなければならないことではないけれどもという。

E： 将来的には働きたいなっていう。

Int： 妊娠なさって、お仕事をお辞めになったんですか？

E： 違うんです。ちょうど市内の会社に勤めていたんですけど、I 市の営業所を閉めるということになって、S 市に転勤しなくてはいけなくなってしまったんですね。それで、結婚して半年ぐらいのときだったので、ちょっと S 市通ってというの…。I 市は、なかなか便が悪くて、仙石線が通っていたときでも、駅まで歩いていける距離でもないし、帰ってくると 19 時過ぎとかになって、それぞれでなかなか大変で。ひとりであればそれでもいいかなと思ったんですけど。なので、それをきっかけに辞めたんです。でも 5 月に辞めて、すぐに妊娠して。そういう意味でちょうど良かったというか。どちらにしてもつわりも結構ひどかったんで、どうせ通えなくなっていたのかなって、あとから思えばそんな感じだったんですけど。

Int： 妊娠される前にもう退職なさって、将来的には働きたいなっていうふうになってらっしゃるってことなんですね。

E： 私の年齢も年齢なんで、難しいと思うんですけど(笑)

Int： 就職事情は、どうなんですかね、石巻は。

E： 厳しいっていうのは聞きますけど。もともと厳しいときですけどね。

Int： 周りの方もやっぱり同じようなことおっしゃってますね。

E： そうですね。周りのお母さん達でも、休職されている方であれば、いずれ戻るとかっていうのもあると思うんですけど、まるっきり辞めてしまうと、フルで働くっていうのもなかなか。やっぱり正社員ですら難しいですよ、こういう状況になると。小さい子どもがいると、どうしても遠慮されがちというか、休むことも多くなると思うので。できればフルで働きたい気持ちはあるんですけど、体もついていくのかな、という自分の不安もあって。

Int： そのご希望は、ある程度具体的に就職活動なさっているっていうわけではなくてですね。

E: そうですね。頭の中でだけは、いろいろ考えてるんですけど、まだ日々追われてしまっているとか、やらなくちゃいけないこともいっぱいあるんですけど、自分が疲れてしまって、一日くたくたになってしまってます。

Int: 育児も大変ですよ。寝かしつけていて、そのまま一緒に寝ちゃったり。

E: 夜中に目が覚めたときに、残りの家事をやったりとか、昼夜逆転したような生活もしていたんですけど。

Int: 出産後ですか。

E: はい、3カ月は。3月20日に生まれて、ちょうど震災直後のときだったので、出産後、主人の実家に行くことになって。私の母親がいないので、本当は、叔母のところにお世話になる予定だったんです。産んだらおいでって、言ってもらっていたんですけど、細かいことはなんとかなるからって言われてて、産んだら考えようとか、必要だったら買えばいいとかって言って、あんまり用意もしてなくて、大丈夫大丈夫って言うから、そんなもんなのかなと思ってたんです。そうしたら、叔母のところまでひどく被災というか、全部流されてしまって。それで、主人の実家のほうは水をかぶってなかったのですが、急遽とりあえず3カ月お世話になって。

Int: ご自分のご自宅は、床上浸水になって。

E: はい。床上、アパートなんですけど。

Int: 出産直前にそういう状況になって、すぐに身を寄せられたんですか？

E: いいえ、身を寄せたのは、地震があって次の日に。その当日は、自宅がアパートなんですけど、主人も帰ってこなくて独りきりだったので、同じアパートの2階の方に声を掛けてもらって、その日は一晩泊めてもらったんですよ。その時点で水が来てしまっていたので。家の場合は、水がダーッと流れてきたわけではなくて、だんだん上がってくるような。

Int: 1階？

E: 1階だったんです。それで、最初のうちは、どうしていいのかわからなくて、他の人に聞けば道も渋滞してるって言うし、自分だけの体であれば、いろんな行動もできたと思うんですけど、転んだりいけないとか、そんな感じで。

Int: 初めてのお子さんですもんね。ご主人が戻れなかったというのは仕事の関係で。

E: 仕事に行っていて、その職場が海淵というか、一番ひどい川の近辺だったんです。ただ最初のうちは、お互いメールのやりとりができていて、大丈夫ということで、日和山ってあるんですけど、そこに避難したって聞いていたので、とりあえず安心していたんですけど、そのあと連絡がつかなくなってしまったので。

Int: 直後はついてはいたけれど、だんだんとね。

E: ひどくなって、それでどうしようかなと。ずっと余震が続いていたので、妹にも、誰にも連絡つかなくて、どうしたものか…、ちょうど平日だったので、兄弟たちもみんな仕事に行っているし。

Int: 平日の午後でしたもんね。それで、同じアパートの上の階の方に。

E: 別の棟の2階の方に声をかけてもらって。最初は、近くに小学校があるんですけど、多分そこが避難所になっているってということで、そこに行こうかなと思って、そのアパートのご夫婦さんと話をしたら、すでに先に行かれたみたいで、中に行かないほうがいいよと、すでにもう校庭まで人がいっぱいになっていたみたいなんです。ちょうど雪が降っていて寒かったんですよ。人が溢れてて、かえってその体で行ったら、風邪引くし、寒いからやめたほうがいいよって。そのご夫婦さんも車に戻って、多分ラジオを聞いていたりしていたと思うんですけど。なので、私も独りで不安だったので、も

しみんなが行くのであれば、そのときに一緒に連れていってもらおうかなと、とりあえず余震の合間をぬって、取れるものは全部取って、着る物と少しの着替えと、あと手に取れる食べる物、お菓子だったりとか、そういうものを全部まとめて、とりあえず自分の車に積んでおいたんです。夜まで、みんな車の中でそんな感じでいたんですけど、だんだん水が上がって来て、車の中まで水が来てしまっ。今考えれば、もっとその前に行動すべきだったと思うんですけど。

Int： あとから考えればね。

E： あとから考えればですけど、周りの人もいたっていうのもあって、みんな動いたら移動しようってどうしても思ってしまった。

Int： 同じアパートの方との情報のやりとりとか、そういったことに不都合はなかったというか。

E： そのような話をして、みんな各々車に乗ってたんですが、車に水がだんだん入りつつあったので、もう駄目だと思って、とりあえず部屋に戻ろうかなと、唯一手元に置いていた懐中電灯があったので、それをもって出たはずだったんですけど、使っているうちに壊れてしまって…。もう灯りもなくなってしまったので、避難所に行くにしてもなんにしても、独りじゃどうしようもないし、これからみんなどうするのかと思って、車から出たら、そのご夫婦さんたちも出て来てくれて、大丈夫ですかって言ったら、もしよかったら、うち2階だからおいでって言ってきて、それで。

Int： 良かったですね。

E： お腹も大きい状態で心配してたんだって言ってきて。

Int： 普段からやりとりのあった方ですか。

E： いいえ、お話ししたことなくて。なので、すごく恩人ですね。

Int： それは良かった。浸水はどのくらいまで？

E： 家の中は、多分20センチまで上がらなかったと思うんですけど、道路はもう車のランプの上ぐらいまで来ていたので、車は半分ぐらいまで埋まって。夜中、ビービーいって、カチカチ鳴っていて。

Int： 水が少しずつ上がってきた段階で、皆さん車から出られて、そこで声を掛けてもらったっていう感じですか。

E： そうですね。これからどうするんすかって聞いたら、じゃあうちにおいでよって。

Int： 良かったですね。

E： 予定日がもうすぐとか言ったら、びっくりされて(笑)。救助が来たら、まず先に助けてもらおうねとかって言ってもらって。年下のご夫婦さんだったんですけど。

Int： そうでしたか。お若いご夫婦なのに。そういうふうに気づかってくださって。

E： 次の日に連絡ついていたうちの弟が、迎えに来てくれて、カヌーで。臨月の妊婦がいるんだということで、自衛隊の人に言ったみたいで、カヌーを要請してもらって。順番だって言われたみたいなんですけど。それで助けてもらって、そのまま自衛隊の車でN病院に一回連れていってもらって。

Int： 震災後何日目。2日目ですか。

E： はい。次の日に、一度N病院に行って、その時点でちょっとお腹がはっていたので、診てもらったんですけど、まだすぐ生まれるって感じではないっていうこと。私は、N病院がかりつけだったんですけど、そのまま、そこにいても大丈夫なような感じだったので、本来はいいですよって表向きではなかったんだと思うんですけど、連絡がつかなくて行くところがない人は…っていう、そんな感じもあって。なので、2日目の晩は、N病院にいたんです。

Int： なるほど。

E： その病院に行った日にうちの主人もやっと下りてきてくれて、会えて。

Int: そのあたりは、連絡はもう。

E: つかなかったんですけど、まず自宅のほうに行って、私もメモ書きを残してきたんで、それを見つけて、暗くなってから来たみたいで。もし自宅にいなければ、N病院かなと思ってって言って、N病院までやっと思り着いたんですよ。

Int: ご主人にお会いになったのは、じゃあ震災のあと3日目？

E: いいえ、次の日です。次の日の夕方。もう腰まで水に浸かりながら、山から下りて来たって。すっかり部屋の中で生まれて、死んでると思ったとかって言われて。

Int: ご主人も気が気じゃなかったでしょうね。E自身は、体が水に浸るってことは。

E: 浸るっていうところまでは、なかったです。車から出て、足がちょっとじゃぼじゃぼってこいぐらいはありましたけど。

Int: そうでしたか。

E: そういう面では、よかったです。あとから病院に行ったときに、すっかり浸かってしまったっていう人がいて、これからどうなるんだろうと思って…。

Int: でも、水に浸らないまでも、季節柄寒くって、そのあたりは？

E: 時期も時期で寒かったのもあって、とにかく寒くするなっていうこともあって、着る物とホッカイロとかも大量に用意していたので、とりあえず、それを全部持って、それで。

Int: 準備なさっていた。

E: そういうものはあって、周りのものとかってというのは、とりあえず持っていたから。

Int: 皆さんすごい準備状態が…。

E: たまたまだったんですけど、そういうものは持っていたので。そのあと、3日目に先生がなんでここにいるのって感じで、ここ避難所じゃないよってなって。ちょうどその日に、主人の実家のお母さんたちがN病院までやっと思り着いてきて、それで一度は実家に行ったんですけど、ガソリンがなくて遠くに行くのがやっぱり不安で、うちの弟がN病院の近くにいたので、そこに産まれるまでいたんです。

Int: なるほどね。ご自分は身内とはいえ、出産間際ということもあって、ご自分の家でないという気をつかったり…。

E: あと私、溶連菌（GBS）があって、それで点滴しなくちゃいけなかったんですね。それをすっかり忘れていたわけじゃないんですけど、とにかく病院で産めるかどうかすらわからなかったんで、病院の近くにに入れることになって、とりあえずこれで大丈夫かなと思ったんです。でもあとから考えたら、もしそうやって病院に行けなかったら、どうなっていたのかなって。

Int: 今から思うと、そのときにこういったことをして欲しかったっていうようなことって、何か浮かびますか。

E: もしそういう場合とか、病院まで行けなければしょうがないですよ。病院にいたときに、避難所で出産してきたっていう方を何人も見てきたんですけど、もしかしたら、自分もそういう状況になっていたのかもしれないなと思って。そのときに、結局、出産はできるかもしれないんですけど、抗生剤だったりとか、その用意っていうのはないわけですよ。せっかく産んだのに、もし感染するようなことになり得たのかなと思うと、ほんとにそういう状況になった場合、どうしたらいいのかなっていうのを、あとから思いました。病院に行けない状態であれば、しょうがないし、連絡もつかないし、自分の足で歩くにもやっぱり限界もあるし、周りに人がいて、どれだけの人が協力というか、来てくれるかどうかはわからないですけど、身内であればなんとかしてくれるのかもしれないですけど、そ

ういうときってほんとに、どうしたらいいのかなってあとになって、すごく怖くなりました。

Int： 想定外っていうところがあるとは思うんですけど。

E： 自分でどうにかできることではないですよ。

Int： 限界がね。

E： お薬とかでもなかったんで、出産のときに点滴すれば大丈夫っていう。ただ、その経緯っていうのもよくわからなくて、検査があったときにこういう病気が見つかって、万が一、子どもが死ぬかもしれないみたいな、そういう可能性もありますとかって言われて、大丈夫なのかなって、なんだかすごく怖くなって…。でも、点滴すれば大丈夫って感じだったので、それに頼るといっか、そうすれば大丈夫なのかなと思ってたんですけど。

Int： そうですよ、震災が起きて。

E： それでなくても、初めての出産で高齢っていうこともあって、いろいろ心配で。実際、頼る人もいないし、どうなっていくのかなっていう不安の中で、震災に遭ってしまって、ますますどうしようかなと思って…。なかなか慣れない主人の実家での生活も、結局、3カ月お世話になりましたけど。

Int： 今回はお話を伺うと、ご家族の方とかご近所の方に、すごくこう…。

E： 助けられましたね。

Int： ほんとですね。

E： 普段そういうやりとりがなくても、そういうときは助けてもらえて。そういう身体だったっていうのも多分あると思うんですけど。

Int： 今、これ（アンケート）を拝見すると、相談に乗ってくれる人が夫、そして助産師さんですね。あと兄弟姉妹となっていますね。

E： I市のスーパーに毎週水曜日に、助産師さんがいつも来てくれて、それで何かあれば、最近行ってます。

Int： それはいいですね。

E： ただ私、結局、母乳が全然出なくて、あとから、もっとあげたかったなと思ったんですけど、それどころじゃなかったんで、出なきゃ出ないものなのかなっていう。

Int： 出産後の準備とかは、どうでしたか？

E： 生まれてみないと母乳が出るか出ないかってわからないので、ミルクもサンプルの小さい缶がひとつだけはあったんですけど、あとは生まれたらでいいよっていう感じだったので、前もって全然用意してなくて、おむつも1パックしか買ってなくて、どうしようどうしようって。いつ産まれるかもわからないところで、もう買える状態でもなくて、遠くにいる友だちに、ちょっとお願いしてみたんですけど、向こうで買うことはできても物資優先なんで、一般の人は送れないって言われて、こっちに来るときに向こうで少し買って手持ちで持って来てもらったりとか、あとお店がやっと開いてから、兄妹が買いに行ってくれたりとかって感じで、あとは徐々に物資だったりとか、そういうのでなんとか私は間に合ったんですけど。ちょうど震災直後にN病院にいたときに、「売店でミルクはないですか」って、やっぱり言ってる人がいて、「子どもに3日ミルクあげてないんです」って泣いてるお母さんを見たときに、これからどうなっていくんだろうと思って。

Int： 不安ですね。生まれる前ですよ。

E： 生まれる前です。この状態がいつまで続くのかもわからないし、私は私で外に出るなって言われていたので、外の状況も全然わからなくて。いろいろ家のことも心配だったりしていたんですけど、そんな身体で何かあったら困るから、出るなって言われて。

Int: お聞きすると、すごいストレスを抱えながら、よく頑張ってお産なさいましたね。

E: 予定日1日遅れで生まれてくれて。震災までは、「早く出て来い、早く出て来い」って、ずっと言っていたのを、「まだいい、まだいい」ってずっと言っていました。1月の末から2月の中旬ぐらいまで、切迫早産で入院していたんです。

Int: この同じN病院にですね。では、スタッフとは、顔見知りではあったんですね。

E: そういう面でも安心だったので、あとからまた来ますとか言って、退院した後だったんですけど、結局、入院した時には、N病院の看護師さんとも先生ともほとんど会わず、みんな外から来た先生達だったり、看護師さんや助産師さんだったりしたんです。

Int: 震災後数日は、このN病院の方しかいなかったかもしれませんが、10日後くらいだといっぱい色々な方が入ってきてますよね。

E: 名古屋から来た看護師さんだったりとか、秋田から来ましたとかって言われて。だから、それまで出産にあたって、「こういうのがあります、椅子がありますよ、CD持ってきてください」とか、色々なそういう出産当日の準備というか、こういうものがあるので…と言われていたものが、全く使うことができなくて。

Int: やっぱり思い描いていた出産とは全く変わっちゃいましたよね。入院はどのぐらいされたんですか。

E: 3日です。

E: 朝3時に破水して、夜9時頃生まれたんですけど、とにかく出産も立て込んでいて、N病院の患者さんじゃない人も、ずいぶんいっぱい来ていたので。そういうときもあるとは言われたんですけど、最初のほうは順調だったのが、午後から陣痛が弱くなってしまって、疲れてるからって、暗くされて、独りで休んでくださいって言われて。

Int: 心細いですね。

E: それで、何かあったらナースコール押してくださいって言われたんですけど、押してもなかなか来てくれなかったりとか、そういうのもあって…。たまに独りでいきんでみてくださいとかって言われて、どうしたらいいんだろうと思って。

Int: それは、なかなか難しいですよ。今だから笑っていられますけど、当時はもう不安ですよ。初めてでいらっしやるし。

E: 主人もそろそろ出産の準備するとかってあるので、午後、早々に出されてしまって、ずっとひとりだったので、暗いし、どうしていいのかわからなくて…。ずっとそんな状態が続いて、夕方ぐらいから促進剤使っても駄目で、20時までに駄目だったらお手伝いをしますとかっていう話が始まりまして、「お手伝いってどういうことですか、帝王切開とかそういうことですか」って聞いたら、「違いますよ、鉗子を使って引っ張りますから」って言われて。別の病棟にいた先生に、なんでこんなになるまで、お母さんの体力がなくなるまでほっといてみたいなことをしゃべったりして、どうなるんだろうって。でも、もうどうでもいいから早く出して欲しいなとか思って。

Int: そうですよ。

E: 結局、21時に引っ張ってもらって生まれて。

Int: 出産は、1日かかりだったんですね。

E: だから、次の日も結構疲れちゃって…。鉗子を使うといっぱい傷ができるので、いっぱい縫わなくちゃいけないとかって言われて、我慢強いんですねって言われながら、夜も30分ぐらいかかって縫って。でも、我慢強いも何も、もう疲れきってしまって…。次の朝も、縫い残しがあったからって、ま

た縫われて。

Int： それは大変でしたね。

E： やっと顔なじみの看護師さんに会えたら、ごめんなさいね、何も教えてあげられなくてって。色んな写真とかプリントとか、それだけ渡されて、ほんとだったら、いろいろ教えてあげたいところなんだけどって言われて。

Int： そうすると、震災前に出産に対して思い描いていたいろんなことが、ちょっと違って…。

E： 全然違いますね。ただでさえわからない、出産がどんなものなのかなと思っていたんですけど、全部バタバタって過ぎてしまって、何も覚えてないですね。どうだったのか、ああったのかっていうことを覚えてなくて、こんなはずじゃなかったのかなっていうのは、すごく残っているんです。すごく楽しみにしていたので…。出産のときに、お祝い膳が出るって言われて、それだけを楽しみにしていたら、もちろんそういうのもなくて、ゆで卵とか缶詰とかそういうのばかり食べていたので。

Int： でも、初めてお子さんと対面したときは。

E： 可愛かったですね。

Int： プリント類を渡されただけっていうことでしたけど、入院中、母乳とかは、泣いたら自分でくわえさせてねって感じですか。

E： 結局、そんなに心配することもなかったのかもしれないんですけど、産んだ次の夜ってというのが、4人部屋で、子どもがいたのは私だけだったんです。みんな出産前の方ばかりで、夜泣いたら周りが出るんじゃないかと思って、ほぼ授乳室にずっといたような…。何時間以上空けないでくださいとか言われて。でも、どんなに搾っても、これっぽっちも出なくて。

Int： 最初は、出ないのが普通なんですよ。

E： 切迫早産で余計にマッサージとかもするなって感じだったし、今、こんな状態だからかなって思ってたんですけど、周りを見ると出ているお母さんもいっぱいいて、私はなんで出ないんだろうなと思って。ただ、お腹すいたって泣くから、ミルクもらって、飲ませて。3日間いたんですけど、ほとんど出なかったの。

Int： その間の母乳の指導とかそういったのは。

E： 全然なかったですね。

Int： そのあたりが、もうちょっとしっかりとあったら、出たかもしれないっていうのもあるかもしれないですね。授乳室にずっといらして、頑張ってたのにね。

E： 初めてだし、だんだん出るようになるよ、とは言われていたんですけどね。主人の実家のほうに行っても、「くわえさせないと出ないんだよ、飲ませろ、飲ませろ」とは言われるんだけど、向こうの状況も、ゆっくりおっぱいをあげるって感じでもなくて。時間がくると、「ほら、ミルク、ミルク」って言われて、ミルクを飲ませられちゃうんです。みんなやりたいのはわかるんですけど、吸わせないと出ないんだからとかって言うわりには、「はい、泣いたからミルク、ミルク」って言われてしまって、なんとなく自分のやり方があっているのか、どうかすら、わからなかったの、言われるがままにやってきてしまっていたんです。でも、あとから聞くと母乳指導の助産師さんがいたりとか、そういうのがあって、ちゃんと指導を受ければ出るようになったのかなとか、よくテレビでも出ないおっぱいはないんだって聞いて、失敗だったのかなとか…。ただ、あの状況でそういう指導をしっかりと受けることもできなかったので、仕方ないのかなとは思ったんですけど。

Int： その辺りのことで、相談する場所はなかったですか？

E： なかったです。さらに、足もなかったの、出られなかったんですね。私も主人も車が駄目にな

ってしまったので、実家にあった車をうちで借りて、主人が仕事に行ったりっていう感じだったので。生まれてすぐっていうのもあって、出られないというのもあったし。

Int: ご主人のご実家に行かれたということでしたけど、本来であれば、新生児の訪問があるんですが、そのご実家にいる間に、訪問とかそういうのはどうだったんですか。

E: I市のほうに連絡をしたら、実家がW町っていうところなんですけど、そちらの方が来てくれたんです。5月になってからだったんですけど。

Int: 1カ月健診は、I市まで来られたんですもんね。

E: はい。こちらで受けてます。

Int: 混乱の状況で出産されて、3日という短い入院期間の中で得たものだけで、急遽、ご主人のご実家に行って、そういった中で、どなたもまわりいらっしゃらなければ、大変だったでしょうね。

E: そうなんです。向こうも向こうで、水に濡れてなかったのも、他の親戚がお風呂もらいに来たりとか、常にガヤガヤしてて。2階の主人の元使っていた部屋に入っていたんですが、朝になると連れて行かれてしまうので、自分も下りないわけにもいかないし、おっばいのあげる時間にゆっくり引っ込んで、みたいな形もなくて。ある程度落ち着くと、お母さんが仕事に行っちゃって、おじいちゃん私たちだけになって、その状況でおっばいをとてもあげづらくて。その度に、なんとなく2階に上がるというのも、すごく難しく、すごくあげづらかったんです。そういうことを言っている場合ではなかったのかもしれないんですけど、「下にいろ、下にいろ」ってずっと言われていて。それでも、吸って欲しくて一生懸命やるんですけど、子どもにもいらないってやられちゃうんです、ミルク早く飲みたいって。本人も拒否するようになってきたので、1カ月ぐらいで断念してしまいました。ミルクでも育つからいいんですけど…。

Int: 頑張りましたね。でも、逆に、ミルク調達の必要が多分あったと思うんですけど。

E: I市の他の店とかもやっていたので、そのあたりには。1カ月早く生まれた友だちがいるんですけど、そっちがいろいろテレビに出る機会というか、生まれてまだ1カ月にならないぐらいのときに、ミルクがないって、ミルクSOSを出したんです。それがテレビで取り上げられたみたいで、結構、集まったって。なので、それを分けてもらったりとかして、1カ月過ぎたあとはミルクには困らなかったんです。

Int: ミルクとかあるところにはあったみたいですよ。

E: 避難所とか、そういうところには。でも、私たちみたいに引っ込んでしまうと、情報もないし。

Int: なので、どうなさったのかなっていう。

E: そういうツテとか、生まれたというのがわかって、いただいたおむつだったり、主人の会社からの物資としていただいたのもあったので、それでなんとか。

Int: 育児に必要な物とか、そういった物で、困った物というのは。

E: 困った物というか、初めてで何がほんとに必要なのかわからなくて、U市にいとこがいるんですけど、その人がこっちに帰ってくるときに、叔母が連絡をしてくれて、出産前で何もなかったらあえずなんか持って来てくれっていうことを言ってくれて、細かい物をほんとに用意してくれたんです。こういうものも必要だったんだっていう物がいっぱい入っていて、ミルトンだったり、肌着だったり、沐浴剤だったり、とにかくそういう細かい物を用意してもらったので、あれはすごく助かったんですよ。

Int: お知り合いやご親戚の方たちの支援がすごいですね。

E: 私のいとこも、4月の頭に出産を控えていて、私が産後に身を寄せようと思っていた叔母の娘な

んですけど、ほんとは2人でお世話になれた頃だったんですね。そっちも、まもなく生まれるということで、2人分用意してくれたんです。でも、そっちは私よりもひどくて、〇町だったんですけど、家も流されて、結局、旦那さんの仕事もできなくなって、2カ月の子どもを連れて、今、姫路の工場のあるところに転勤しているんです。そういうことを考えると、私はここにいられるだけで、まだいいほうだなと思うんですけど。

Int: そうですか。お住まいになっていた床上浸水したところに、今も？

E: また戻ったんですけど…。不動産屋さんに言っても、そこも被災して、なかなかこれからどうするのかって、すぐには決まらなくて。最初のうちは、リフォームしてくれるような話だったんです。とりあえず3カ月は、別のところに仮住まいしていたので、そんなに急いでもなかったんですが、ただそのままにはしないのでって言われていたんですけど、最終的にリフォームもしてくれなくて、濡れた畳替えと水を含んで閉まらなくなったドアの修理だけして、結局、「うちも大変なんで、あとは自分で掃除してください」みたいな感じだったんですね。下に置いてたものもだし、全部下に落ちちゃったし、あと、ほとんどの電化製品は駄目になって。

Int: すごい出費ですね。

E: ただ、私たちはいいんですけど、生まれてすぐの子どもをそこに連れていっていいのかと思って、うちの主人がひとりで全部掃除をしてくれて、実家にずっといるのも、私も限界だったので、7月に戻ってきたんです。もともと実家に行く予定じゃなかったの、自分たちの準備も何もなくて、とにかく最初は必死だったけど、だんだん時間が過ぎてくると、だんだん苦しくなってきました…。

Int: 最初は、無我夢中ですからね。でも、少し落ち着いてきたら、やっぱり色々思いますよね。

E: やっぱりミルクのあげ方とかも、自分の思う通りにいなくなってきてしまって、時間はないし。

Int: ご主人の仕事場は、被災されたとおっしゃってましたけど、その後、ご主人のお仕事は？

E: 会社は全部流れてしまって、そこで働けなくなったので、とりあえずS市のほうに、転勤という形で通っていたんですけど、去年の9月から再開するというので、I市に戻してもらって。

Int: ご主人の仕事場が変わって、生活していく上で結構、大変でしたか。特に生活面では、変わらなかったですか？

E: やっぱり朝が早くなりましたね。震災で仕事をする場がなくなって待機という形で、4月の後半ぐらいまでは、ずっと家にいてくれたんで、その間は良かったんですけど、そのあと仕事が再開するというのでS市通いになったので、もう朝5時までには出ていかなくちゃいけないという。それで、実家から自宅に戻ってくるってなったときに、その生活を崩さないでくれって言われて。でも、私も3カ月間、食事の用意とかも何もしてなくて、できるのかなということだったんですけど、とにかく子どもが寝てる間にと…。車もないし、買い物とかも出れなくて、ネットスーパーとか再開したら、利用はしていたんですけど、限界ありますよね、そういうのも。最初のうちは、慣れるまでほんとにひどかったですね。本来、みんなやってることだと思うんですけど。

Int: そうすると、家事育児はもうお母さんが一手に引き受けて。

E: そうですね。やらざるを得ないというか、それが普通だと思うんですけど。

Int: でも、やっぱりストレスたまりますよね。お話の最初で言っていたように、可愛いんだけどずっと面と向かっているって…。

E: 寝ているだけのうちは良かったんですけど、最近うるさくて。今は、会話まではいかないですけど、やりとりができるようになって、それはそれでおもしろいんですけど、それ以上にうるさくて。とても活発で、とても元気で、成長してくれて、ありがたいことなんですけどね。歩くのも、すごく

早くて9カ月ぐらいから歩かれてしまって。最近では、もう走り回って、追っかけるのが大変で、私がくたくたになって。

Int: ほんと家事育児はもうエンドレスで、いつも終わりが無いのでね。お母さんのストレス発散は…?今、預けるところがないっておっしゃってましたけど。

E: 今一番それが、これからどうなるのかなと思ってます。みんな、やってるんでしょうけどね。

Int: やっぱり保育園の一時預かりは、難しそうなんですかね。

E: いよいよ利用できる年齢まで来て、1歳半からできるなと思っていたんですけど、急だと困るので、ちょっと挑戦してみようかなと思って。でも、その一時預かりもいっぱいみたいで、この間友だちのお母さんに聞いたら、申し込んでもずっといっぱいだって言われて。それで、保育所に聞いてみたら、「キャンセルが出たときに、たまたまそこで申込みがあれば大丈夫。だから、こまめに電話ください」って言われたんです。用事があるって申し込むのではなくて、空いている日に1日申し込んでみて、まず体験してと思っているんですけど。

Int: 保育所とかでない一時預かりしてくれる団体さんとかもあるみたいですけどね。

E: 他にも探してみればいいんですかね。

E: ちょっとこの間会ったお母さんに、「保育士さん次第なのかもしれないよ。そのスーパーの託児は駄目だけど、他で大丈夫だったっていうのもあって、預かるほうの人も結構重要みたいだよ」って言われて。なので、どこに預けても相性が合わなければ駄目だと思うんですけど。そういうのも、あとは慣れですからね。

Int: 震災があって余計狭き門になったということもあるんでしょうね。

E: だと思います。

Int: 今、その辺の支援がやっぱり必要なんですかね。

E: はい。もっともっと必要ですかね。ただでさえ、待機が多くなって聞いているので。なかなか難しいのかなと思うんですけど。

Int: 今は、預かってもらえるという支援が必要ですかね。これぐらいのお子さんだと、子育てだったり、そういった相談というのは、支援センターとかでちょこちょこ聞いたりできますか。

E: 小さいうちは、支援センターの先生にいろいろと聞いたりしてたんですけど、もうバタバタしちゃって、あんまりそういう時間もとれなくなってしまったんですよ。本当は、助産師のH先生のところにも行きたいんですけど、午後からなので、昼寝の時間になってしまうし。あとは、とにかく走り回って逃げられてしまうので、カートにも乗ってくれないんですよ。なので、どうしようもなくして…。今、カートに乗せようとするとうたかれるし、やっとな乗せても抱っこして泣かれて、今度、抱っこすると重たいのでずっと抱っこしているわけにもいなくて、買い物に行っても、すぐに帰ってくるような状態なので、疲れるからわざわざ行きたくなくなってくるっていうか。

Int: その辺の相談しきれないストレスとかの部分は大丈夫ですか。

E: ネットとかそういうので見たりとか。

Int: こういうのがあったらいいのに、というのは何かありますか。

E: みんな、うちもそうだよ、そうだよって言うんですけど、やっぱりお母さんと一緒に行ったりとか、おばあちゃんについてもらったとか、そういうのを聞くので、ほんとに独りで子育てしている人ってどうしてるのかなって、最近よく思います。

Int: 皆さん、ほんとに悩みながらね。今、自分がやることが正しいかどうか分からないしね。

E: あとになって、あー違ったなとか、こうしておけば良かったのかなって思うことの連続で…。ほんとに教えて欲しいときに、教えてもらえる環境じゃなかったの、友だちとかが、近くにいればいろいろ聞いたんですけど、それもなかなかできなくて。寝ている間とかに電話で色々聞こうと思うんですけど、そういうときに限って呼ばれたりして、実家にいてもそんな感じだったので。

Int: サークルの方のママさんとはどういうお付き合いというか、そのサークル内、以外でお友だちになったりしてますか。

E: はい。家のほうに遊びに行ったこともありますし、あとはこっちに行こうとか、あっちに行こうとか、こういうのがあるよとか、いろいろ教えてもらったりするんですが、あんまりそんなには。

Int: まだ始まったばかりって感じで、なかなか親密になるという方は、まだいらっしやらないですかね。

E: まだないですね。ただ、去年の10月に出産した同級生がいて、そっちは仲良く、行ったり来たりしてます。私が先に産んだもので、いろいろと教えてあげられることは教えてあげたりして。週に1回とかうちに遊びに来ているんですが、そっちは女の子で、それを別なお母さんに話したら、「これから大きくなってくると遊びが違うから同姓のお友だちがいたほうがいいよ」とかって言われて。それはそれでいいんですけど、男の子のお母さんと、改めて仲良くしなくちゃいけないのかなって、仲良くしている同級生の子たちがみんな女の子なんです。それを聞いたら、仲良くしなくちゃいけないというか、男の子のお友だちを作ってあげなきゃいけないのかなって。今、それでどうしたらいいのかなって。そういうものなんですかね。ほんとに気を許して話せるのが、みんな女の子のお母さんたちだったので、今まで、あんまりそういうのを考えないで来たんですけど。

Int: でもそれは棲み分けじゃないですけど、いろいろ相談したりできるのは、女の子を持つお母さんだとしても、遊ばせるときは別に男女関係なく子どもも遊んだりできるだろうから。

E: よくママ友さん難しいって、まさに直面なのかなと思って。そのときだけで、とりあえずそんなに深入りしなくてもいいのかなと思ったりするんですけど、そういうのを聞くと、なんかやっぱりどうしようみたいな。そういうのも最近ちょっと生まれてて、あんまり深く考えることでもないのかなと思ってんですけど。

Int: お子さんのことを考えるがあまりにね、そういうふうには。こういうしなきゃならないかな、という義務感でね。ほんとにお母さん一生懸命なんです。でも、お母さんがストレスというか、色々考えながら遊ばせるよりは、女の子と一緒に遊ばせても、その場でお母さんが笑っているほうが、お子さんにとっても多分いいと思うんですよ。女の子、男の子あんまり考えずに、お母さんが楽しくいらればいいんじゃないかと。発達してきてある年齢になると、お子さんがお友だちを選ぶようになってくるし。

E: 今はまだ私が連れて歩いたりとかっていう状態だから。

Int: 将来的に保育園とかに入りたいとおっしゃってましたし、もし入れば男の子もいっぱいいますから、自然とお友だちもできてくると思うので、そこからでも遅くはないかな。

E: 今からまだ考えることはないですかね。久しぶりに同級生の人に会って、そっちは女の子なんですけど、遊びが変わってくるからって言われて。ああ、そういうものなのかなと思って、急にそういう現実が。(笑)でも、まあ保育所なり、幼稚園なりに入れば、またね。

Int: 子どもだけの世界になりますしね。

E: 親がこっちで遊ぶためとかっていうわけには、いかないですからね。

Int: 止めても、自分のほうから行くようになってきますからね。

E: 今から考えることでもないような。

Int: そうですね。お母さんが楽しく育児なさって、他のお母さん方とコミュニケーション取ってれば、もうそれで十分だと思います。拝見するとお子さんがすぐくのびのびと育てらっしゃるようだから、いい育児なさってるんだなって感じてました。経済面とかでは、どうですか？現在の生活で思うことはありますか？

E: 2人で生活することを考えて今のアパートに決めて、ゆくゆくは引っ越しとかも考えて、2人で働いているときに借りたアパートだったので、安くなくて。しかも、2部屋しかなくて、子どもが1人増えてやっぱり狭いなと感じるんですけど、ただ今、引っ越しをしたくてもほんとに物件がなくて。もっと安くて広いところがあるはずだと思うんですけど。今後、このまま生活していくには、ちょっと苦しいかなっていうのがあって、今それが、一番の私の悩みというか。2人で働いていればいいんですけどね。今、暮らしていけないほどではなくて、まだなんとかなっているからいいんですけど、ずっとこのままでは苦しいかなって感じはありますね。

Int: そうですね。

E: どれぐらいで落ち着くものなのか…。まだ、仮設住宅のあるうちは、1年2年とかっていうことではないと思うので、アパート暮らしをして、家を建てたいなという話もしていたんですが、今度は土地がなかったりとか。当分、現実にはならないかなと思うんですが、できるなら年齢も年齢なので、早いうちにとりかかりたいなと、なんにしても早いほうがいいなと思ってはいるんですけど。

Int: 次のお子さんの予定などは。

E: 体力的に厳しいなとずっと思っているんですが、周りで生まれたっていうのを見ると、やっぱりいいなって思うんです。でも、現実にかういうのが2人いたらどんなに大変かな、経済的にも苦しいかなっていう。ただ、主人のお母さんは早く早くっていう。

Int: プレッシャーになっちゃいますね。

E: 向こうにいるときから、「年なんだから、もう早く2人目を」とか言われて。それはそうなんですけどって感じなんです…。でも、実際問題として夫婦で話をして、いいなっていうところ止まりですかね、今のところは。

Int: じゃあ、お仕事するほうが方向性としては？

E: もし預けるにしても、なかなか小さいうちだと、保育所に預けても、すぐに呼び出しがあったりして、そうなったときに、誰も預けられる人がいないってのが、一番ネックになるんですよ。

Int: もともと身を寄せるつもりだった、叔母さまは今どちらにいますか。

E: 叔母は、私のアパートの近くというか、市内のマンションに仮住まい中です。ただ、そちらも小学生の男の子が2人いまして、預けるというのは一度もしたことないですし、遊びに行くことはあっても、預かってとお願いするのは、言いづらいし…。

Int: 迷うところですね。いろいろお母さんも周りに気をつかいながら。

E: ほんとの気持ちというか、そういうのを話せる人がなかなかなくて、そのところが辛いなっていうのがありますけど。

Int: お話できる方が、助産師さんとご友人と。

E: 育児の相談とかは、できますけど。

Int: 第三者のほうが、本音が言えますか？それとも、親族やご友人とかのほうが。

E: 今の状態だと、お父さん、お母さんには話ができないですね。なんとなく最初から引け目というか、なんていうか…。うちは、両親もいないし、私のほうが年上だったりとか、いろいろな引け目な

ところがあって、なかなか難しいですね。自分の母親がいないというのは、ちょっと辛いかなというのがあって。

Int： 出産して改めてね。

E： それまではなんとかやってきたんですけど。

Int： でも、Eさん、頑張ってるじゃないですか。

E： 親がいない人は世の中いっぱいいますけど。ちょっと買い物行ってくるからって預けられないし、ずっと離れられないっていうのは、今ちょっとつらいですね。動かないうちはよかったですけど、連れて歩くようになると。

Int： なかなか思い通りにいかないですもんね。もし、今みたいなこういう機会がたまにあれば、そういうほうが逆に思いを吐けて、ちょっといいなとか、そういうのはありますか。育児サークルに入ってしまうと、なかなかやっぱり言えないとか、ありますか。

E： いろんな人がいるので、みんなの中にいると聞かれたくないこともあるし、お母さん同士で話をするのと、相談とでは、また違うので。だからこういう機会があると、たまにはいいのかな。

Int： H先生のところにも行きたいとおっしゃってましたよね、そういう存在ですね、きっと。お子さん、よく眠ってますね。

E： 寝てる時だけは可愛いですよ(笑)

Int： 育児で嫌になっちゃったりはしませんか。

E： どうなのかな。だんだん疲れてきたり、いたずらばかりされるので、キーン！ってなったりして、虐待とかしませんけど、テレビとかであるじゃないですか。なんか気持ちわからなくはないんですよ。

Int： みなさん、そうだと思いますよ。そう思ってるお母さんたちはたくさんいると思います。自分もやりかねないって思ってますからね。

E： 可愛いばかりじゃないなって。普通に私の状態が良いときであればいいんですけど、ちょっと具合が悪かったりとか、そういうときも容赦ないですからね。そういうときに限って元気だったりとかして。

Int： お母さん自身の健康状態は。時々疲れちゃったり、具合悪くなったり。

E： すごく疲れますね(笑)。最近特に、この子を遊ばせなくちゃいけないと思って、一生懸命外に行くようにしてて。本来、家にいて、なんかずっとボーッとしていたりって、時間も欲しいんですけど、なかなか今それもできなくて。好きなテレビを見るとか、レンタルをしてくるとか、そういうのも全然できないので。気持ちがあってもDVD借りて来たところで見ると時間もないし、だんだんそういう気すら起きなくなってきて、逆に早く午後から昼寝してくれないかなって、毎日それを考えてますね。

Int： ちょっと手伝いというか、いつか見ていてくれるような存在が必要ですね。

E： 出産する前に母子手帳もらうときに、市の相談というか講習会があって、家で見てくれる手伝いというか、そういう人もいますよって、そういうええ言われたなと思ったんですけど、なかなかそういうのに頼るといって、それもなかなか非常に難しいかなと思って。

Int： 頑張ってるからね。抱っこしたりするとね、肩がガチガチになるんですよ。

E： すごい肩こりなんです。最近、ずっと抱っこ抱っこって、昼寝が終わると抱っこ魔になるんです。ちょうど夕食の準備をしなくちゃいけない時間になるんですけど、泣いて抱っこ抱っこって言われるもので。

Int: ゆっくりお風呂につかることも、ままならないしね。

E: 最近お風呂もつかってない。お父さんがいるときは、お風呂も入れてくれるんですけど。そのあと、寝かしつけもしないまま、自分も寝てしまったり。

Int: そうですよ。

E: それで、夜中にお風呂に入ったりとか、最近はおきまらめて朝にシャワーを浴びたりすることもあるんですけど。だから、全然疲れが取れないというか、服着たまま、ちゃんと寝る準備して寝ていないので、朝起きると体中が痛かったり…。

Int: 夜中だって、お母さんは子どもに気を使いながら寝ているわけですからね。

E: 最近寒くなってきたので、布団をかけると、嫌がって泣いて起きるんですよ、足にからまったりすると。なので、夜までこれからどうしていけばいいのかなと思って。カバーオールみたいな足つきのやつで、ちょっと大きめのやつを探して、着せたほうがいいのかなとか。

Int: 今は調整が難しい時期ですね。子どもは、ちょっと薄くていいですよ、大人よりもね。いつも抱っこみたいですが、おんぶとかはされないですか。

E: おんぶを嫌がるんですよ。離せーって、手をグーッとされて。この間、あんまりにも泣くので、久しぶりにおんぶしたら、もう落ちそうなくらいにのけぞって、やっぱり駄目だと思って、しょうがないから抱っこしたままとか…。でも、抱っこしたまま火を使うっていうのは、危ないんですよ。

Int: 抱っこは前が見えないからね。夕飯の支度のときなんか、ぐずりませんか？

E: ちょうどその時間で抱っこするので、最近、もうどうしようもなくなって、一度は出前に。体の限界ですね。

Int: これから毎日出前を取り続けるわけじゃないから、たまにはいいんじゃないですか。そこはちょっとお父さんに頑張ってもらって。たまにはね、お母さんも褒美をもらわないと。お母さんが壊れちゃうと大変ですから。

E: やっぱり何が困るって、私が病院に行かなくちゃいけなかったりとか、いろいろ健診に行かなくちゃいけなかったりとかっていうときですね。今、1、2カ月に1回とか、婦人科通いしていて、一緒に連れて行くんですけど、病院が嫌いで、自分の病院じゃなくても、ものすごい勢いで泣かれてしまうんですよ。だから、最初のうちは連れていけないと思って、お父さんが休みのときに預けて、昼の時間とかに行ったりしていたんですけど、それだとやっぱり限界があって、休みがあわなくて、最近連れていくようにしていたんです。

Int: 土曜日もご主人は。

E: 仕事です。ちょっと前までは、日曜日は休日だったんですけど、仕事の内容が、土曜、日曜、祝日関係ない仕事に戻ってしまったので。ちょうど今忙しくて、ほとんど休みがない状態で、みんな、いっぱいいっぱいになってきて、振り回されて。

Int: そのうち、もう、待ってなさいって言ったって、親なんかどける時期がきますよ。

E: 今だけだよって、過ごしてきた人には言われる。お母さん、お母さんって言うのは、一時なんだよって言われても、確かにそうなんだろうなと思うんですけど…。

Int: そのときは必死よね。

E: どうにもならないなって。過ぎてしまえば、ねんねの頃が良かったなって、よく言うんですけど。でもその頃はあの頃で、早く大きくなんないかなと思ってはいたはずで。

Int: 誰もが思っていたはずですよ。

E: 結局、楽な時間っていうのはないんだろうなって。今度、魔の2歳が来るよって、3歳過ぎるま

では大変だよって、最近よく言われるようになって、これ以上ひどくなるのかと思って…。

Int： 足が速くなりますからね、今以上に。

E： 今、すでに追いつけなくなっていて、ほんとに走って回ってるんで。かと思えば、この間久しぶりにあったお友だちでは、やっと歩くようになったっていう子もいて、個人差が激しいんですね。

Int： ほんとにね、1歳前で歩く子もいれば、ゆっくりの子もいてね。あんまり動かない子もいればね、活発の子もいて。

E： もっとゆっくりでも良かったなと思って(笑)

Int： それはそれで、多分そのお母さんも心配だと思いますよ。周りの子はもう動いているのに、うちの子は…って、また別な思いもあって、なかなか難しいですよ。

E： 歩くまで早く歩かないかなって思っていたはずなんですけど。

Int： 歩いたら歩いたで早いしね。

E： すぐ走るし。

Int： なかなかうまくはいかないですよ。

E： そうなんですね。これっぽっちも、親の思う通りにはならない。最近、1人でこんなに大変なのに、買い物とか行くと、ひとりで3人、4人子どもを連れて歩いているお母さんとか見ると、尊敬するなって、ほんとに。大きい声で怒っているお母さんとか、生むまではそこまで言わなくても…って思っていたんですけど、今になると、自分もそうなんだろうなと思って。みんなそうなっていくんだなと、これが現実なんだなと思って。

Int： 長くいろいろとお話を伺って、貴重なお話いただきましてありがとうございました。

E： 今日の対象というのは、どれぐらいまでに出産した方が対象になるんですか。

Int： 震災1カ月前ぐらいに産んだ方から、震災があったときに妊婦さんだった方ですね。なので、出産は、10月ぐらいまでの方になっているんですよ。

E： 私はN病院だったんですけど、N病院だけじゃなくてってことですね。

Int： はい。県内の被災地の近辺にある病院に依頼してという形ですね。この辺の育児サークルには、よく来られているんですか？

E： 月2回とかそれぐらい来てます。意外とサークルも近場なので、行きやすくて。

Int： お母さんたちがやってるやつですか、それとも市のやつですか。

E： ベビースマイルです。

Int： どうですか、いろんなイベントやられてますよね。

E： 昨日は、ママ対象のバンビ体操ってあって、それに行ってきたんですけど、人の集まりがあまりよくないらしくて。子どもの回はいっぱい来るんですけど、お母さん対象っていうのはそれだけで、なかなか集まらなくてとかって、やめようかっていう話もしていたんですけど、来てくれるしねって言われて。いろんなサークルには顔を出しているんですが、ママ対象っていうのが、やっぱり少なくて。結局連れていくんですけど、自分メインというのがあると、私的には嬉しいんです。預けられなくなったので、結局、昨日もほとんど抱っこしてくれとか、何もできなかつたんですけど。でも、自分の時間を作りに行くっていう気持ちだけでも、あるのと、ないのとでは、やっぱり違うかなって思うので、できればこのまま続けて欲しいなと思うんですけど。

Int： これから続けていっていたら、もしかしたら、お母さんべったりじゃない日もあるかもしれないし、勝手にふらふらと歩いて遊んでいたら、自分が楽しめますもんね。自分が行動できる日っていう。

E： 自分でできないほどの運動の内容ではないんですけど、家にいたらやらないので。

Int： そんなもんですよね。自分のために出て行くってことですよね。

Int： かなり激しい運動はするんですか。

E： 激しくはないです。あまり激しい運動だつついていかれない感じですが。ちょっとストレッチみたいな感じで、それぐらいの程度のものであれば。出れば疲れるんですけど。

Int： でもね、そこで、得られるものもあるし。

E： 寝てるときはほんとに…。(笑)

Int： わざわざ来ていただいて、長い時間本当にありがとうございました。これだけ寝ていたら、お家で起きちゃいますね。

Fさん：30歳代後半 経産婦

分娩日：2011年7月中旬 分娩時週数：39週

Int：2回に渡るアンケートに、お答えいただきましてありがとうございます。今回、震災前後の妊娠とご出産ということで…。お嬢ちゃんがいらして、お兄ちゃんがいらっしゃるんですね。お二人目ということですね。

F：はい。そうですね

Int：震災にあわれてから4カ月後にご出産なさった。そうすると、震災の時、お腹の中に下のお子さんがいらっしまったのが、ちょうど妊娠6カ月ぐらいですかね。安定期に入ったとはいえ大変でらっしまったでしょ。お腹が大きくて、お兄ちゃんもいらっしまった状況で。

F：そうですね。避難所の生活が、衛生面なんかですごく不安になる状況でしたね。

Int：避難所にどのぐらいの期間いらっしまったんですか？

F：震災後3日目が出たんです。やはり衛生面でちょっと耐えられなくなって。それで、お家に帰るまでに、太腿くらいまで水につからないとお家に辿りつけない…というところに家があったんですが、濡れてもいいからとにかくここを出たいという気持ちになりまして、3日目に出たという状況です。

Int：そうだったんですね。被災されたお家は床下浸水。

F：そうなんです。家は、ちょっと高くなっているんで、ギリギリ床下だったんですけど、そこに行くまでの間に太腿くらいまで、浸からないと行けないという状態で。

Int：じゃあ、お腹が大きくて、腿まで水に浸かりながら、ご自宅に戻られたんですか？

F：主人がおんぶしてくれました。(笑) ちょっと冷たいということで。

Int：ご主人、お優しいですね。お二人目のご妊娠とはいえ、やっぱり産むまでに色々ご心配なこととかもありましたよね。震災もあって。

F：避難所に行ったときには、まだ状況がわからなくてあまり不安にもならなかったんですけど、だんだん時間がたっていくにつれて、ペットも家族という方々の気持ちもわからなくなっているのですが、ズタズタに濡れたゴールデンレトリバーとか、あぁいった大型犬がすぐ近くにいっぱいいたんですね。それで、うちは産まれてないからまだいいですけど、ハイハイするような赤ちゃんとかもそこにいたわけですから。そういったところがどうにかならないのかなと、だんだんと不安な気持ちにやっぱりなっていました。

Int：そうだったんですか。じゃあ、自分の家族は、ここというふうに場所を決めていて、そこにペットもみんな一緒についてきて。

F：学校に行ったんですけど、その学校の避難所には、もう廊下に座っても座りきれないぐらいの方がいっぱいいたので。でも、学校だったら教室がたくさんあるので、例えば、乳幼児とか、妊婦とかっていう人たちを、静養っていったら、なんかそんな身分でもないのはわかるんですけど、ひとつ確保してくれれば、もうちょっと不安にならずに過ごせたと思うんですけど。

Int：確かにそうですね。

F：いつもよりも神経質になっている妊婦っていうときに、不衛生な感じが露骨に出ていると、一刻も

早くここを出ないと、という気持ちになりましたね。

Int：そういう状況だったんですね。それで3日目にご自宅にお戻りになって。

F：そうです。意を決して出ました。自宅に戻っても、水がもう床上だろうけど、帰ればバスタオルでもなんでもあるからということで帰りましたら、ギリギリ床下だったんです。

Int：なるほど。それからは、ずっとご自宅にご出産までいらっしゃったんですか。

F：ちょうどその避難所を出たときに、連絡は取れてなかったんですけど、その学校の門のところに主人の兄が迎えに来てくださっていたんですね。それで、兄は県内なんですけど、一番家から近い学校にいるんじゃないかっていうことで、来てくれたのとちょうど会いまして、連れて行ってもらったという感じで。

Int：そうだったんですね。避難所は3日間ということですが、その後の生活で、出産までの3カ月くらいの期間にこういった支援があればよかったのになということはありませんか？上のお子さんでも。

F：まだ産まれる頃ではなかったんで、まず産まれてから必要な物を何も買っていない状況で。

Int：出産準備品ですね。

F：そうです。それらが、もちろん市内で買える状況でもないんで、今産まれたらどうしようっていう不安な気持ちと、産まれてからどうしようというのと。

Int：そうですね。ご出産はどちらの病院でしたかね。S病院。これは石巻市内？

F：そうです。かかりつけだった病院で。

Int：もともとご出産予定のところ。

F：はい。最終的に出産はできたんですけど、その病院が大きく被災してまして、そこの先生がすごく手配が早くて、震災後N病院に産むまでの手続きをしておいてくださって。それで、N病院のほうに通院していたんですけど、S病院のほうで6月から復活しまして、N病院のほうから、前医に戻りますか、それともこのままここにいますか、という話をされまして…。それで、私としては一人目もS病院で産みましたし、N病院も溢れてるということを知っていたので、S先生のところに戻って産みたいですっていうことを。

Int：信頼できる先生にね。そうですね。

F：S先生のほうで了解して下さったので、出産まで。

Int：思うようなご出産ができましたか。

F：早く復興して下さっていたので、一人目のときと同じように安心して産ませていただきました。

Int：良かったですね。

F：7月が出産予定日で、7月から分娩を受け入れるということだったので、受け入れていただきまして、ありがたかったです。

Int：いろいろ出産準備品とかそういった物も揃えてなくて、当然ですよね。お産まで余裕があるし。そして、お察しするに色々不安な中で出産までをお過ごしになって。

F：一人目のときに使った物とっておいたものは、全部水没してしまったんですね。床下浸水とはいえ、車も被災したんです。チャイルドシートでもベビーカーでもなんでも全部が水没してしまっただけで、まだ、揃えてないのに、あったものまでが水没して使えなくなってしまったので。住宅が床下だと一部損壊ということで、市町村からの援助がほとんどない状態なんですけど、これから生まれる子た

ちとかに対して何かないのかなというのを、すごく思いましたね。

Int：なるほどね。全壊とか一部損壊とかいう家の状況によって、いろいろな補助が違ったり…。建物自体もそうですけれども、目に見えない、さっきおっしゃったような物が色々と使えなくなってるというのがありますもんね。

F：さらに、車もなくなっているんで、病院に行く手段だったりとか、必要なものがたくさんある中で、そういう支援というのが、どうしても半壊以上にしかないんで、住宅の損壊だけで全てを決めてしまうっていうところに、少し疑問を感じました。

Int：なるほど。このあたりもしっかりあげていきたいと思います。確かにベビーカーとかだっすごく高いし、ベビー用品って、安いところで買っても、色々とまとめると高いんですよね。それでは、またひと通り買いなおされたんですか。

F：そうです。買い揃えました。住宅は、下に土台があるから少し高いですけど、物置は、地面にすぐあるものなので、50センチぐらい水没してしまっていて、そこに置いていたものは、全て駄目になりました。何もなくてちょっと悲しいですね。

Int：そうですね。それもお腹が大きい時期とか、出産して間もない時期からお母さんが買いに行ったりしたんですか？ご主人のご協力も、もちろんあったでしょうけど。

F：H地区のスーパーは、割と早く再開したので、どうにか買うこともできましたし、あとは県外の主人の実家の近くのお店で買うこともできました。でも、県外とはいえ、その時期の東北はどこでも、おむつは、ひとり1袋までとか制限がありましたので、なかなかきちんと揃えることが…。

Int：経済的な面でも、非常に打撃を受けていらして、やっぱり出産間もない時期と育児で体調がまだ完全に戻らない状態で、精神的にも、すごく大変だったかと思うんですが、そういうときに、いろいろ相談ののってくださる方ってご主人とお母さまと。

F：近くにいる家族が協力的というか、暖かくしてくれているので。

Int：ご身内の方のご支援というのも非常に大切ですけども、その行政とかに対して、先ほどおっしゃってくださったようなことも含めて、物質的な面もそうですけれども、その不安とか精神的な面でも、例えば、こういう支援があればいいのに…とか思ったことってありますか。

F：まず、私も仕事はしてまして、仕事の時間帯が夕方なものですから、通常の保育園とかの利用ができないんですね。18時、19時台に仕事をしてまして、延長保育もあるんですけど、18時までとか19時までとかっていう感じなので、預けるところがなかったんですね。上の子が行っていた託児所は、被災してなくなってしまったんです。それで、産休中は良かったんですけど、産休が終わってから、そういったことで保健師さんに相談をしたんですけど、保健師さん自体、子どもを預かる場所の時間帯とか、どこにどういうものがあるっていうのを把握してらっしゃらなくて。

Int：知らない…。地域の保健師ですか。保健福祉センターとかの？

F：そうです。じゃあ、「誰に相談すればいいの？」という。当然、市の保育園とか利用できる時間帯じゃないっていうのはわかっているのですが、市の託児室っていう、生まれてから市から配られる冊子に、無認可保育園とか託児室が一覧で載ってはいるんです。ですけど、どこが何時までとか、どれぐらい受け入れてくれそうだったっていうのを全然把握していないので、聞いても「どこかあるといいですよ」というような言い方なんです。それで、相談する場所がないんだっていうことをすご

く思って、短期間でも、見つけるまでの間だけでも、多分、託児所とか保育園とか被災して行くところがなくなった人ってたくさんいると思うので、そういうサポートが欲しかったですね。あとは、ベビー用品も、たまたま買いそろえることはできたのでよかったです。S病院から退院するときに、俳優さんが哺乳瓶を物資で置いていってくださったんですね。それを、ひと箱ずつ退院するときにもらいまして、その支援はすごくありがたかったですね。

Int：そうですか。ミルクとかのお水は大丈夫だったんですか？

F：いざ、この子が生まれるっていうときには、自分の家は、もう水道が復旧してましたし、あとは買えるときに買ったという感じですね。

Int：先ほど、お仕事をなさっているっていうことでしたけれども、産前産後の休暇で復職なさった？

F：産前産後をお休みして、2カ月後から復帰しました。

Int：そうでしたか。2カ月後というと、9月。

F：そうですね。

Int：じゃあ、ちょうど復帰なさってから1年ぐらい経つんですね。お仕事をしてお子さんも育てられて、家の状況もいろいろ変わって、使える物が使えなくなったりとか、いろいろ大変でらっしゃったんじゃないですか。

F：もうそのときは、やっぱりみんな生きてるんだし、生きるか死ぬかっていうところで、まずひとつ落ち着いた感じだったので。みんな無事だったってということだけでも…っていう気持ちではいたんですね。ただ、もっと日にちが経っていくと、やっぱり色々と、あとから思うことはたくさん出てきますね。落ち着くと。

Int：そうすると、職場に復帰なさって約1年、下のお子さんが生まれてから1年と3カ月ぐらい経ちますけれども、今もそのお仕事をなさっているということで、保育園は…。

F：たまたま、受け入れてくださる保育園があって、民間でやってるところなんですけど、お仕事の時間だけ一時預かりという形で見ますよっていうことを言っていたかまして。それも、自分の足で回って探す形だったので。

Int：やはりお母さんが個別に探して。ほんとに自分から問い合わせたりなんかしないと、見つけれない。おそらく、これは被災とは関係なくって、ですよ。

F：そうですね。公立保育園とかだと、市のほうで情報がありますけど、震災後は特に、被災した地域に保育園とかがたくさんあったらしくて、今の状況がわからないっていう感じで言われたりとか、あとは、震災前は何時までやっていたけど、今は何時までしかできないとかっていう…。

Int：繰り上げる感じが多いんですかね。

F：変わってしまったんですね。システムが。

Int：被災の状況によってね。

F：市役所とかもあの様に大きい建物なので、なんかそういうサポートをするお部屋とか教えてくれないものかと、保健師さんもたくさんいるはずなのについてというのがすごく。

Int：実はそういった要望が、今日の面接の中でもすごく多くて。やはり、その一時預かりなり、そういったちゃんとした育児の支援体制っていうのを、すごくたくさんの方がおっしゃってらっしゃいますから、共通した問題なのかなと思っています。Fさんは、いいところを見つけられて、預け先が決